



## 富士山古墳群と五所皇神社古墳

常陸大宮市の主要なアクセス道路である国道118号線。その道路を水戸市方面から北上し、市内下村田にある玉川橋を渡ると、右手（東側）に鎮守の森が見えてきます。その鎮守の森に鎮座するのが五所皇神社で、その裏手（北側）にあるのが「五所皇神社古墳」（写真1・3）です。

今回は、常陸大宮市を代表する古墳群のひとつである「富士山古墳群」と、その古墳群の中で最大の規模を誇る五所皇神社古墳について紹介します。



▲写真1 五所皇神社古墳の遠景（鎮守の森の遠景）

### 【富士山古墳群の概要】

富士山古墳群は、久慈川と玉川の合流点に向かって突出する肥沃な台地の先端部と、台地よりも標高の低い独立丘に立地しています。台地先端部及び独立丘の周辺は、ほぼ平坦な低地が広がっていて、一部の古墳は低地にも造られています。現在、低地は豊穡な水田になっています。

当古墳群は、かつて五所皇神社古墳を中心に、計12基の古墳がありました。その後、宅地造成や耕地拡張等によりいくつかの古墳が無くなってしまいましたが、現在、第5号墳、丸山古墳、そして五所皇神社古墳が富士山古墳群を構成する主要な古墳として、ほぼ当時のまま現存しています。

昭和51(1976)年には、宅地造成に伴い、第1号墳、第3号墳、第4号墳の3基を対象に発掘調査が実施されました。特に、第4号墳は、調査の結果、埋葬施設は発見することはできませんでしたが、前方後方墳であることが確認されました。規模は、全長37.8m、後方部高さ3.1m、前方部高さ1mで、その周囲を幅5.0m、深さ0.9mの堀が巡らされていました。古墳の特徴は、二段の構築で、前方部長と後方部長の比率が4対6で

設計され、前方部が三味線のバチのように広がる形であることから、県内でも最古の古墳のひとつと考えられています。

第5号墳は、当古墳群の最北端に位置し、国道118号線の東側に隣接する山林に所在しています。本墳は、宅地造成の際に保存措置になった古墳で、径30m、高さ3mの円墳と考えられていますが、第1号墳と第3号墳と同様に方墳の可能性もあります。

丸山古墳（写真2）は、当古墳群の最南端に位置し、低地に立地しています。径30m、高さ6mの円墳と考えられていますが、前方後円墳の可能性も指摘されています。



▲写真2 丸山古墳の遠景

### 【五所皇神社古墳の概要】

五所皇神社古墳は、全長60m、後円部径38m、高さ6.5m、前方部幅26m、高さ4.5mの前方後円墳です。当古墳群の中で最大規模を誇る当古墳は、はるか遠方から目視できることから、豊穡な水田域や久慈川等の河川域からの眺めを意識して台地の最先端に当たる独立丘に築造されたことが想像されます。

当古墳は、いにしえから鎮守の森として守られてきました。風情のある当古墳一帯は、これからも地域の宝のひとつとして守られていくことでしょう。



▲写真3 五所皇神社古墳の近景（前方部北側から）

### ■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111(内線344)